

2021 年 3 月 15 日

突哨山でのネズミ類の採集計画について

突哨山運営協議会

出羽 寛

旭川医大寄生虫学教室の中尾稔、佐々木瑞希さんは長年にわたりネズミ類とキツネの間で生活環を持つ内部寄生虫によるエキノコックス症の研究を行ってきました。エキノコックスは人にも虫卵を介してエキノコックス症に感染します。

これまでの調査で、突哨山、春光台、嵐山、旭川南部で採集したキツネの糞の遺伝子解析からそれぞれの地域のキツネの遺伝子分化度（分化度が小さいとキツネの集団間での交流頻度が高い）を調べ、突哨山と嵐山のキツネ集団の両地域間の交流頻度が高いことを示しています。両地域の間にある春光台のキツネ集団との交流頻度はむしろ低いのですが、春光台のタイリクヤチネズミからエキノコックスが見つかっています。

そこで、突哨山、嵐山、神楽岡公園、旭山公園、春光台でのネズミ類のエキノコックス感染率とキツネの移動経路を調査する必要があることから 5 地域にお

けるネズミ類の採集計画が出されました。

旭川地方の住民にとっても重要な調査であり、突哨山での調査を進んで受け入れたいと思います。ただし、次の2点について採集内容を検討した上で実施してもらうことを勧めます。

1. トータルで400頭のネズミ類の捕獲とあります。とすると1地域で80頭前後の捕獲数になります。これまで突哨山での調査を受け入れる場合、出来るだけ生態系に影響を与えないように最低限での採集をお願いしています。エキノкокスの感染率を調べるためにはある程度捕獲数を多くする必要があることはわかりますが、大量に捕獲するとネズミ類の個体群に影響を与える可能性があります（特に神楽岡公園のような孤立した小面積の場所ではその可能性が高い）。捕獲する種類（突哨山には4種ほど生息）、捕獲数について再度検討した上で調査を実施することをお願いします。

2. 内部寄生虫のサンプリングを行った後、研究施設で焼却とありますが、将来様々な調査に利用できる可能性があることから、計測、繁殖状況などの記録をとった後、液浸標本として研究施設で保存することをお願いします。